

当世買物事情

昨秋鯖五尾五百円で味をしめた或る夫婦。今年も油ののった鯖を買い求めようと勇んで出掛ける。目的地は日本での集客ランキング二位のオアシス。鯖はまんず酢でめめ、味噌煮、甘辛煮、南蛮漬と買う前から料理法をあれこれ考え、ニンナリして目指すは魚売場。

アレ……。氷水に浮かぶ鯖は一尾五百円。びっくり仰天。なぜ？そんなに太っていないし、普通サイズで一尾五百円だどつ。意気込みはどこへやら。すごすご一尾五十円のカマスを開り込んで六尾三百円で購入。あきらめ難しとはこのことか……。

落胆の力でスーパーへ。丸々と太った鯖の干物がトレイに入って一尾五百九十八円。ここでも落胆。高くなったものよ。横にある鰯はぼつてり太って一尾二百九十八円なり。消費税も加えると魚って高いのだの溜息で帰宅。

そして、いつもの価格と思って手にした味噌は何か軽いではないか。一キログラムの重量が七百五十グラムとある。安い訳でした。チョコレートも価格は以前と変わらないと思い、手にすれば何か薄くなっていました。スーパーに行くごとに十円づつ値上がりしているバター。しかも午後はバターの棚は空。隣のバターもどきも棚は空いている。価格のみならず数量が限定されている故か、午後には商品なし。価格だけではなく時間との戦いもあったのでした。

そう言えば年々サイズが小さくなる〇〇のアイ菓子。世の中、価格は同じ、軽く小さくの傾向でした。

折角夫婦手をたずさえての買い物も価格だまのうち、数量限定、時間制限と楽ではありませんでした。

安くなる坂をころがり落ちるが如き〇〇〇〇の衣服。ブラック企業の旗印の下、怪しげ価格である不信感は拭い切れず。カシミアと銘打ってはあるけれど、毛玉のできるカシミヤです。

今のところ価格の優等生はガソリン。これが当てになるやならずかの浮気者。

小さめのカマス、塩焼きで一人三尾づつの豪華夕食なり

一消費者（外山説子）

